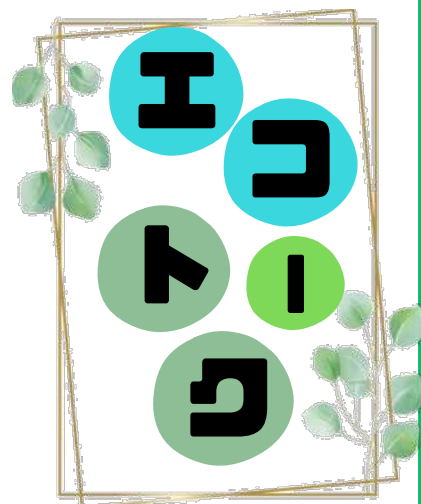


宇美町



(2022年広報9月号)

町内にお住まいの皆さんいかがお過ごしですか？

還暦を超えられた方々は半世紀以上前の夏の日と近年の環境の違いをしっかりと感じられていると思います。今号は、前号に続いて水のお話です。

私たちが住む地球にはおよそ14億³mの水があるといわれていますが、そのうちの97%が海水であり、淡水は約3%しかありません。そしてこの淡水の約70%は南・北の極地域の氷として存在しており、地下水を含め川の水や湖・沼など私たちが生活に利用できる淡水は地球上の水の僅か0・8%でしかありません。この0・8%の水でもうすぐ人口80億にならんとする地球で生活する人々で分け合わなければならないのですが、「20世紀は石油で戦争が起きたが21世紀は水で戦争が起きる！」と危惧される所以です。

福岡市では昭和53年に記録的な少雨の影響で、約10ヶ月間にわたって給水制限が実施されました。このことから筑後川から福岡市まで直径2メートルのパイプをつなぎ、近隣市町にも配水するよ

うにしたり、海水淡水化施設を設置したりして莫大な経費をかけて生活用水が供給できるようになっています。宇美町もこの福岡地区水道企業団から水を分けてもらっています。

一般的に各家庭の蛇口をひねったらそのまま水が飲める！というのが日本の自慢の一つですが、自治体から供給される水は51項目の厳しい水質基準の範囲内に収まるように調整・管理されています。いわゆる、自治体から供給される水は作られています。宇美町では供給される水を作るために、種々のポンプを運転したりして、CO₂を排出しています。水の使用量を減すことでCO₂を削減できるのです。

50年後・100年後に生活する人たちのお手本になるように生活を見直しませんか？



文責 福岡県地球温暖化防止活動

推進員 竹吉 栄隆